

一 三 の中から二題を選択して解答しなさい。

選択しない問題の解答番号には、絶対にマークをしないでください。

一

次の文章は、『源氏物語』の一節である。按察大納言には亡くなった北の方との間に二人の娘(大君と中の君)と一人の息子(大夫の君)があり、現在の北の方(真木柱)の連れ子の娘(宮の御方)が一人いるが、大君を春宮に入内させたところである。以下を読んで、後の設問に答えよ。

七間の寝殿広くおほきに造りて、南面に、大納言殿、大君、西に中の君、東に宮の御方と住ませたまつりたまへり。(中略)春宮には、右大臣殿の並ぶ人なげにてさぶらひたまへばきしろひにくけれど、さのみ言ひてやは、人にまさらむと思ふ女子を宮仕へに思ひ絶えては、何の本意かはあらむ、と思したちて、参らせたまつりたまふ。十七八のほどにて、うつくしうにほひ多かる容貌したまへり。

中の君も、うちすがひて、あてになまめかしう、澄みたるさまはまさりて、をかしうおはすめれば、ただ人にてはあたらしく見せまうき御さまを、兵部卿宮のさと思したらばなど思したる。この若君を内裏にてなど見つけたまふ時は、召しまとはし、戯れがたきにしたまふ。心ばへありて、奥

推しはからるるまみ、額つきなり。「せうとを見てのみはえやまじと大納言に申せよ」などとのたまひかくるを、「さなむ」と聞こゆれば、うち笑みて、

いとかひありと思したり。「人におとらむ宮仕へよりは、この宮にこそはよろしからむ女子は見せてまつらまほしけれ。心のゆくにまかせて、かし

づきて見たてまつらんに命延びぬべき宮の御さまなり」とのたまひながら、まづ春宮の御事を急ぎたまうて、春日の神の御ことわりも、わが世にやもし

出で来て、故大臣の、院の女御の御事を胸いたく思ひてやみにし慰めのこともあらなむと心の中に祈りて、参らせたまつりたまひつ。いと時めきた

まふよし人々聞こゆ。かかる御まじらひの馴れたまはぬほどに、はかばかしき御後見なくてはいかがとて、北の方そひてさぶらひたまふは、まことに

限りもなく思ひかしづき後見きこえたまふ。

殿は、つれづれなる心地して、西の御方は、ひとつにならひたまひて、いとさうさうしくながめたまふ。東の姫君も、うとうとしくかたみにもてな

したまはで、夜々は一所に御殿籠り、よろづの御事習ひ、はかなき御遊びわざをも、こなたを師のやうに思ひきこえてぞ誰も習ひ遊びたまひける、も

の恥ぢを、世の常ならずしたまひて、母北の方にだに、さやかにはさをさし向かひたまつりたまはず、かたはなるまでもてなしたまふものか

ら、心ばへけはひの埋もれたるさまならず、愛敬づきたまへること、はた、人よりすぐれたまへり。かく内裏参りや何やとわが方さまをのみ思ひいそ

ぐやうなるも心苦しなど思ひて、「さるべからむさまに思ひ定めてのたまへ。同じことこそは仕うまつらめ」と、母君にも聞こえたまひけれど、「さ

らにさやうの世づきたるさま思ひたつべきにもあらぬ気色なれば、^④なかなかならむことは心苦しかるべし。御宿世^Yにまかせて、世にあらむかぎりは見
たてまつらむ。後ぞあはれにうしろめたけれど、世を背く方^cにても、おのづから人笑へにあはつけきことなくて過ぐしたまはなん」などうち泣きて、
御心ばせの思ふやうなることをぞ聞こえたまふ。

^ウ いづれも分かず親がりたまへど、御容貌を見ばやとゆかしう^ア 思^アして、「隠れたまふこそ心憂^dけれ」と恨^イみて、人知れず、見えたまひぬべしやと
のぞき歩きたまへど、絶えてかたそばをだにえ見たてまつりたまはず。「上おはせぬほどは、立ちかはりて参り来べきを、うとうとしく思し分くる
御気色なれば心憂くこそ」など聞こえて、御簾の前^エにゐたまへば、御答へなどほのかに^オ聞こえたまふ、御声けはひなどあてにをかしう、さま容貌思
ひやられて、あはれにおぼゆる人の御ありさまなり。わが御姫君たちを人に劣らじと思ひおこれど、この君にえしもまさらずやあらむ、かかればこ
そ、世の中の広き内裏はわづらはしけれ、^⑤たぐひあらじと思ふにまさる方もおのづからありぬべかめり、など、いとどいぶかしう思ひきこえたまふ。

(『源氏物語』より)

注1 きしろひにくけれど…(春宮には既に右大臣の女御がお仕えしているので)せりあうのは難しいが。

注2 この若君を…戯れがたきにしたまふ…兵部卿宮が大夫の君を見かけるとおそばに召して遊び相手になさっているということ。

注3 せうとを見てのみはえやまじと大納言に申せよ…弟と会うだけではおさまらない(姉君と会わせよ)と大納言に言うよう、兵部卿宮が大夫の君
に言った。

注4 春日の神の御ことわり…皇后は必ず藤原氏から立つべきであるという春日明神の神託。

注5 故大臣の、院の女御の御事を胸いたく思ひてやみにし…亡くなった大納言の父大臣が、冷泉院^{れいぜいん}に娘を入内させたが、源氏の養女の女御が先に
入内していたために皇后になれなかったことを残念がっていたこと。

注6 北の方…按察大納言の今の北の方、真木柱。大君には継母にあたる。

注7 西の御方…中の君。大君と一緒にいることに慣れていた。

注8 東の姫君…宮の御方。

注9 わが方ざまをのみ思ひいそぐやうなるも心苦し…大納言が自分の実子のことばかりを気に掛けているようなのは宮の御方が気の毒だと思った
ということ。

1

問一

文中の二重傍線部 a・e のうち、助動詞「けり」であるものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

① a

② b

③ a・d

④ b・e

⑤ c・e

2

問二

傍線部①「かしづきて見たてまつらんに命延びぬべき宮の御さまなり」の解釈として最も適切なものはどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

① 丁寧にお世話いたすだろうに、宮の様子からは、命には限りがあるので難しいと感じられる。

② 宮が望んでいる様子なので、自分の娘を大切に育てて差し上げれば、大納言の地位も長く続きそうである。

③ 聒としてお世話申し上げたら、自分の寿命も延びるに違いないような、素晴らしい宮の様子である。

④ 娘であれば帝に差し上げたいと思わせる宮の美しいご様子は、命を延ばしても見ていたいと思う。

⑤ 臣下となってお仕えしたとしたら、長生きできそうに思われる、やさしげな宮のご様子である。

3

問三

太線部 X「女御」と、太線部 Y「宿世」の、文中での読み方として最も適切なもの（現代仮名遣い）の組み合わせはどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

① X〓おんなご Y〓すくせ

② X〓じよぎよ Y〓しゆくせい

③ X〓にようご Y〓すくせ

④ X〓によぎよ Y〓やどりよ

⑤ X〓おみなご Y〓しゆくせい

4

問四 傍線部②「慰めのこともあらなむ」とあるが、按察大納言はどのように考えているのか。説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、

その番号をマークせよ。

- ① 父の恨みを鎮める効果があるだろうか心配している。
- ② 娘を帝に入内させるのはやめようかと迷っている。
- ③ 亡き父の心痛をいたわったことを思い出している。
- ④ 娘の宮仕えが父の供養になるだろうと考えている。
- ⑤ 娘がいつか帝の后きさきになってほしいと願っている。

5

問五 傍線部③「さうさうしくながめたまふ」の解釈として、最も適切なものはどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① うるさく感じながら物思いをしていらつしやる。
- ② さびしくぼんやりとしていらつしやる。
- ③ にぎやかに管弦の演奏をしていらつしやる。
- ④ 物足りなく思われて歌を詠んでいらつしやる。
- ⑤ 落ち着かない感じで庭を見ていらつしやる。

6

問六 第三段落では、宮の御方の性格などが描写されているが、どのような姫君であると述べられているか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① 母に隠れてしている習い事では、きわめて優秀である。
- ② 母親に対してさえもよそよそしいほど礼儀正しい。
- ③ 人と話すのは苦手で、様子をうかがい知ることができない。
- ④ とても恥ずかしがりやだが、その魅力は人より勝っている。
- ⑤ 異常なふるまいがあるものの、可愛らしいところもある。

7

問七 傍線部④「なかなかならむことは心苦しかるべし」とは、母北の方のどのような思いの表現か。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① 宮の御方の性質上、結婚はかえってかわいそうなことになるだろうということ。
- ② 宮仕えを勧めても、宮の御方はむしろ喜ばないはずだということ。
- ③ 娘の縁談がうまく進まない、夫の大納言がつらくなるだろうということ。
- ④ 中途半端な状態のままでは、宮の御方が苦しい思いをするに違いないということ。
- ⑤ 義理の娘のことで大納言に気遣いさせるのは、自分としては申し訳ないということ。

8

問八 文中の□で囲んだア～オの動作の主体は、一つだけが宮の御方、ほかはすべて按察大納言である。宮の御方が主体の動作はどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① ア 思して
- ② イ 恨みて
- ③ ウ のぞき歩きたまへど
- ④ エ ゐたまへば
- ⑤ オ 聞こえたまふ

9

問九 傍線部⑤「たぐひあらじと思ふにまさる方もおのづからありぬべかめり」とは、どのような意味か。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① 自分の娘たちは他とは違った特別な存在だと思っているが、たまたまそのようになった人もあるように聞いている。
- ② 自分が宮の御方にかかる思いはこれ以上ないほどだが、自ら進んでそうすべきだと考えてしていることだ。
- ③ 自分の娘たちを並ぶ者がないほど素晴らしいと思っていたが、もしかしたらそれより優れた人もいるに違いないようだ。
- ④ 宮の御方をこの上なく美しいと思うものの、広い世には自分からそれを超えらると思う人もありそうだ。
- ⑤ 娘がこの人の他にはいないと思うような相手も、ひとりで見つかるということもあるかもしれない。

10

問十 『源氏物語』は、物語のタイプとしてはどのようなジャンルに属するか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

① 歌物語

② 軍記物語

③ 歴史物語

④ 作り物語

⑤ 伝奇物語

次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

豊前国^{ぶぜんのかくに}うだの佐伯^{さいき}と申す人、一族に所領を取られ、京都へ上り、沙汰^{さた}するといへども、さらに道行かずして、年月を送れども、かひなし。かくてはかなはじと思ひ、清水に参りて、一七日籠りて、御夢想に任せ、ともかくにもならんと思ひたち、たけまつと申す童を一人具して参り、祈念を深く申せども、さしたる御夢想もなかりけり。あたりをきつと見てあれば、年のほど二十ばかりの女房^{にようばう}の、みめかたち世にすぐれて、翡翠^{ひすい}のかんざしは、青黛^{せいだい}が立板^{かた}に唐墨^{からすみ}をかけたるに異ならず、桂^{かつら}の眉墨^{まゆすみ}青うして、丹棠^{たんわ}の唇^{くちわ}うつくしくして、牡丹^{ぼたん}のかさねしに異ならず、^{注1}三十二相^{さんじふさう}のかたちは、月を妬^{ねた}み、花を嫉^{そね}むばかりなる女房の、みな水晶^アの数珠をつまぐり、念誦^{ねんそう}半ばと見えけるに、佐伯、心に思ふやう、同じ人間にすむならば、かやうのひと一夜の枕を並ぶるよしもがなと、あまり心のたへかねて、^①言葉をかけんと思ひ、立ち寄り、「御籠り候ふか」と申せども、聞かぬ顔にて候ひしほどに、もし主^イばしあたりにあるやらんと、しづ心もなかりけり。^②

さて、夜もやうやう明けければ、興^イがる下女に包みを持たせ、舞台をさして出^いでられけるほどに、あまりの名残惜しさに、立ち寄り袂^{たもと}を控へて、一首かくなん、

A 別るればわれこそ憂けれ暁の鳥は何しに音をば鳴くらん

B きて見てぞ宿のつらさも知られる君故濡^ぬる袖と思へば

かやうに詠みければ、女房もうち案じ、歌の返事せぬ者は、舌なきものに生まると聞けば、ふり返り、かくなん、

C われもただ同じ心ぞ旅衣きてこそ宿のつらさをも知れ

かやうに詠み捨てて帰りければ、あまりの名残惜しさに、たけまつを呼びて、「今の女房のあとに行きて、宿を見て帰れよ」と言ひければ、この童見え隠れに行きければ、四条高倉にて、さも優なる所へ入りけるほどに、続きて入り見れば、広縁^ウにうちあがり、妻戸^エへ入らせ給ひけるが、うしろを見給へば、童の来たりしを、つくづくと見給ひて、うち笑みて立たせ給ひけるほどに、この童さし寄りければ、この女房のたまひけるやうは、「なんぢが主には、もずの草ぐきと言へ」とばかりにて、内へ入らせ給ひけり。

^③ 急ぎ帰り、ありのままに申しければ、佐伯聞き給ひて、うち案じつつ、しばらくありて、さては嬉^{うれ}しきものかな、歌の本歌にさることありし、

D 物蔭^{ものかげ}にありと見えなば起きなせそ今宵過^こぐすなもずの草ぐき

^④ この歌の心なりと思ひて、こと尋常に出で立ちて、かの宿所へぞ急がれける。もとより、かの女房も、今宵と言ひしことなれば、今やいつやと待ちおたり。さるほどに、佐伯、この内へつかつかと入るほどに、とかくのこともなく、偕老同穴^{かいらうどうけつ}のかたらひ浅からず。この女房は、世にある人にて、禁中

様へも、代々さんらうかんを参らせ給ひけるほどに、佐伯の本領も、程なく道行きて、豊前へ下らんとぞのたまひてこしらへられけり。この女房、少しの間も立ち離れんことを悲しみつつ、下りかねてぞありしが、ある時、この女房に申されけるは、「ただ今も、連れ参らせ下りたくは侍れども、たけまつ一人候へば、とかくのことにも及び候はず。やがて御迎ひに上せ候ふべし。それまで離れがたく思ひ参らせ候へ」とのたまひ、^⑤「たがひに御心も一つにて候はば、道すがらのことも推し量らせ給ひて、御忘れも候はずおぼしめし給はば、御迎ひを参らせんまで、これをかたみに御覧^⑥じて御待ち候へ」と、^⑦鬢^{びん}の髪を少し切りて、女房に参らせけり。女房も、離れがたく思はれけれどもとばかりのたまひけり。

(お伽草子『さいき』より)

注1 三十二相：仏が具備しているという優れた三十二の外見的特徴のこと。

11 問一 傍線部ア「数珠」・ウ「妻戸」の漢字の読みは何か。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① ア＝たま ウ＝つまど
- ② ア＝かずだま ウ＝ふしど
- ③ ア＝すぎよく ウ＝つまど
- ④ ア＝すうしゅ ウ＝ふしど
- ⑤ ア＝じゅず ウ＝つまど

12 問二 傍線部①「言葉をかけんと思ひ」とあるが、どうしてそのように思ったのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 女房のような美しい人と一緒に過ごしたいという気持ちが抑えきれなかったから。
- ② 女房の信心深さに心を動かされ、どうにかして話をしたいと思ったから。
- ③ 女房の美しさが人とは思えないほどで、その正体を確かめたいと思ったから。
- ④ これほど美しい女房がなぜ清水へ参籠^{さんろう}したのか、その理由が知れたかったから。
- ⑤ 女房とは前世からの因縁で再会したように思えてならなかったから。

13

問三

傍線部②「しづ心もなかりけり」とあるが、なぜか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 女房に自分の気持ちを見透かされているように思ったから。
- ② 近づいて見て、ますます女房の美しさに魅了されたから。
- ③ 思いのほか、女房から何も返事がもらえなかったから。
- ④ 近くに女房の夫がいるのではないかと思ったから。
- ⑤ 女房の両親がそばで様子を見ていることに気がついたから。

14

問四

傍線部イ「興がる」・カ「やがて」の意味は何か。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① イ||嫌がる カ||ようやく
- ② イ||興味津々の カ||すぐに
- ③ イ||忌み嫌う カ||たまたま
- ④ イ||趣のある カ||そのまま
- ⑤ イ||面白がる カ||いずれ

15

問五

和歌 A 〴 D の中で、女房が詠んだ和歌はどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① A と B
- ② B と C
- ③ B と C と D
- ④ C
- ⑤ C と D

16

問六 傍線部エ「入らせ給ひける」・オ「下りかねてぞありしが」の動作の主体は誰か。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選

び、その番号をマークしなさい。

- ① エ＝童 オ＝童
- ② エ＝童 オ＝佐伯
- ③ エ＝女房 オ＝佐伯
- ④ エ＝女房 オ＝女房
- ⑤ エ＝童 オ＝女房

17

問七 傍線部③「ありのままに申しければ」とあるが、具体的にどのようなことを伝えたのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選

び、その番号をマークしなさい。

- ① 女房は、佐伯の命令で童が自分の後を追っていることをわかっていたということ。
- ② 女房は、童が後をつけたにもかかわらず、そのことに腹を立ててはいなかったということ。
- ③ 女房が、とても素晴らしい屋敷に住んでいたということ。
- ④ 女房が、童に屋敷へまた来るようにと言ったこと。
- ⑤ 女房が、佐伯に「もずの草ぐき」と言うよう伝えたということ。

18

問八 傍線部④「この歌の心なり」とあるが、具体的にどのような気持ちを詠んでいるのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選

び、その番号をマークしなさい。

- ① 今晚、こっそりとあなたから逃げるしか方法はないという諦めの気持ち。
- ② 今晚、人目にふれないように、こっそりと私のところへ来てほしいという気持ち。
- ③ 今晚、何としてもあなたに会いにいきたいと願う気持ち。
- ④ 今晚、たとえ会えなくても私のことを考えていてほしいと期待する気持ち。
- ⑤ 今晚、私のところへは来ないでほしいと強く拒む気持ち。

19

問九 傍線部⑤「のたまひ」・⑥「御覧じて」は、それぞれ誰から誰に向けた敬意を表しているか。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | |
|---|---------|---------|
| ① | ⑤ 佐伯↑作者 | ⑥ 女房↑佐伯 |
| ② | ⑤ 佐伯↑女房 | ⑥ 女房↑作者 |
| ③ | ⑤ 女房↑作者 | ⑥ 佐伯↑作者 |
| ④ | ⑤ 佐伯↑作者 | ⑥ 佐伯↑作者 |
| ⑤ | ⑤ 佐伯↑女房 | ⑥ 女房↑佐伯 |

20

問十 本話は、お伽草子の一作品である。お伽草子よりも成立が後のものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | |
|---|---------|
| ① | 宇治拾遺物語 |
| ② | 落窪物語 |
| ③ | 南総里見八犬伝 |
| ④ | 拾遺和歌集 |
| ⑤ | 保元物語 |

次のⅠの文とⅡの詩を読み、後の設問に答えなさい。(なお、設問との関係から訓点を省略したり、原文を改めたりした箇所がある。また、設問中に問題文を引いた箇所の訓点もすべて省いてある。)

Ⅰ

僧^{せう}齊^{せい}己^き、長^{ちやう}沙^さ人^{なり}。長^{ちやう}沙^さ有^{あり}大^{だい}瀉^き同慶寺、僧^は多^く而^ハ地^ち広^{ひろ}、佃^{でん}戸^こ僅^{わずか}千^{せん}余^{あまり}家^{なり}。齊^{せい}己^き則^{すなは}ち佃^{でん}戸^こ胡^こ氏^し子^し也^{なり}。七^{しち}歳^{さい}、与^よ諸^{しよ}童^{どう}子^し為^な寺^{てい}司^し牧^{ぼく}牛^{ぎう}。然^{しか}天^{てん}性^{せい}穎^{えい}悟^ご、於^お風^{ふう}雅^や之^の道^{みち}、日^に有^{あり}所^{しよ}得^{とく}。往^{むかひ}往^{むかひ}以^{もつ}竹^{ちく}枝^し画^え牛^{ぎう}背^へ為^な篇^{へん}什^{じふ}。衆^{しゆ}僧^{そう}奇^き之^の、且^{かつ}欲^{ほつ}壯^{さう}其^{その}山^{さん}門^{もん}、遂^{すなは}ち勸^{かん}令^を出^で家^か。時^{とき}鄭^{てい}谷^{こく}在^{あり}袁^{えん}州^{しゅう}、齊^{せい}己^き因^{よつ}携^へ所^{しよ}撰^{せん}詩^し往^{むかひ}謁^{てつ}焉^{なり}。有^{あり}「早^{さう}梅^{めい}」詩^し曰^{いはく}「前^{ぜん}村^{そん}深^{しん}雪^{せつ}裏^り、昨^{そく}夜^や数^{すう}枝^し開^{ひらく}。」谷^{こく}笑^{わら}謂^い曰^{いはく}「数^{すう}枝^し非^ひ早^{さう}、不^ふ若^{じやく}一^{いつ}枝^し則^{すなは}ち佳^{よし}。」齊^{せい}己^き矍^{かく}然^{ぜん}、不^ふ覺^{かく}下^{くだ}拜^{はい}、自^{より}是^{これ}士^し林^{りん}以^{もつ}谷^{こく}為^な齊^{せい}己^き。其^{その}後^{のち}居^ゐ於^を長^{ちやう}沙^さ道^{だう}林^{りん}寺^し。時^{とき}湖^こ南^{なん}幕^{もく}府^ふ中^{ちゆう}能^{よく}詩^し者^{しや}、有^{あり}如^{ごと}徐^{じよ}東^{とう}野^や、廖^{れう}凝^{ぎやう}、劉^{りう}昭^{せう}禹^う之^の徒^と、莫^な不^ふ声^{せい}名^{めい}藉^{せき}甚^{じん}。而^{しか}徐^{じよ}東^{とう}野^や尤^{もつ}好^{この}輕^{けい}忽^{こつ}、雖^も王^{わう}公^{こう}不^ふ避^け也^{なり}。每^{ごと}見^み齊^{せい}己^き、必^{かならず}悚^{しよく}然^{ぜん}。不^ふ敢^{かん}以^{もつ}衆^{しゆ}人^{にん}待^{たい}之^の。常^{じよう}謂^い同^{どう}列^{れつ}曰^{いはく}「我^{われ}輩^{はい}所^{しよ}作^{さく}皆^{みな}拘^こ於^を一^{いつ}途^と、非^ひ所^{しよ}謂^い通^{つう}方^{ほう}之^の士^し。若^{ごと}齊^{せい}己^き才^{さい}高^{かう}思^し遠^{えん}、無^な所^{しよ}不^ふ通^{つう}、殆^{たいて}難^{なん}及^{およ}矣^{なり}。」論^{ろん}者^{しや}以^{もつ}徐^{じよ}東^{とう}野^や為^な知^ち言^{げん}。其^{その}為^な名^{めい}士^し推^{おし}重^{じゆう}如^{ごと}此^{これ}。及^{しか}將^{しょう}游^{いう}蜀^{しやく}、至^{いた}江^{かう}陵^{りやう}、高^{かう}從^{しやう}誨^{くわい}慕^ぼ其^{その}名^{めい}、遮^{しや}留^{りゆう}之^の、命^{めい}為^な管^{くわん}内^{ない}僧^{そう}正^{せい}。齊^{せい}己^き不^ふ獲^{かく}已^{なり}而^{しか}受^う、自^{より}是^{これ}常^{じよう}快^{かう}快^{かう}、故^{ゆゑ}其^{その}友^{とも}虛^こ中^{ちゆう}示^し之^の詩^し云^い「老^{らう}負^ひ峨^が眉^び月^{げつ}、間^{かん}看^{かん}雲^{うん}水^{すい}心^{しん}。」蓋^{しか}傷^{いた}其^{その}不^ふ得^{とく}志^し也^{なり}。竟^{つひ}卒^す於^を江^{かう}陵^{りやう}。

Ⅱ 早梅 齊己

⑤ 万木凍欲折

孤根暖^{カニ}独^リ廻^{めぐル}

前村深雪^{ウチ}裏

昨夜一枝開^ク

風^ハ通^{つたへテ}幽^ニ香^ヲ去^リ

禽^{とりハ}窺^{ヒテ}素^ニ艷^ヲⅡ

明年^シ如^{ズレバ}律^ニ

先^ツ發^{セン}映^ニ春^ニ台^ニ

(Iの注)

○長沙〓地名。現在の湖南省長沙市。 ○大瀉〓山名。湖南省寧鄉県、桃江県、安化県の境に位置する。 ○佃戸〓小作人。 ○寺司
〓寺の諸事務を扱う部局。 ○穎悟〓才知が優れて賢明なこと。 ○風雅〓詩経の国風と大雅・小雅のこと。転じて詩文のこと。

○篇什〓詩歌。また詩歌をまとめたもの。詩経の雅や頌で十編を一什としたことによる。 ○鄭谷〓唐末の詩人。袁州宜春(現在の江

西省宜春市)の人。 ○夔然〓おどろく様子。おそれる様子。 ○下拝〓礼拝する。 ○湖南〓地名。洞庭湖南。現在の長沙市の一

帯。 ○幕府〓もと出征時に設けられる軍営のこと。転じて、長官直属の政庁、また、その属僚をさす。 ○徐東野、廖凝、劉昭禹〓

人名。 ○藉甚〓名声が世間にひろがっていること。 ○悚然〓恐れてびくびくする様子。 ○同列〓同僚。 ○知言〓人の言葉を聞

いて真意を理解すること、また、それができる人。 ○江陵〓地名。現在の湖北省荊州市。 ○高從誨〓五代十国の荊南君主。 ○僧

正〓僧官の名。管轄内の仏教勢力を統括する。 ○怏怏〓気の晴れない様子。 ○虚中〓人名。 ○峨眉〓四川省にある山の名。

○雲水〓行脚僧。雲や水のように諸方をめぐり歩いて修行することからいう。

(IIの注)

○廻〓うねうね曲がる。ぐるぐるまわる。 ○幽香〓ほのかな香り。 ○素艷〓白く美しい。 ○応律〓曆象(天体の運行、季節の移

り変わり)に呼応する。 ○映春台〓楼台の名。

21

問一

波線部A「為」、B「為」の読み方(送り仮名も含む)として最も適切な組合せを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① A〓ために B〓ために

② A〓なす B〓なる

③ A〓なる B〓つくる

④ A〓なる B〓なる

⑤ A〓なす B〓ために

22

問二 波線部C「若」、D「若」の読み方(送り仮名も含む)として最も適切な組合せを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① C ㄥしか D ㄥごときは
- ② C ㄥしたがは D ㄥもし
- ③ C ㄥしか D ㄥなんぢ
- ④ C ㄥしたがは D ㄥごときは
- ⑤ C ㄥしか D ㄥもし

23

問三 傍線部①「衆僧奇之、且欲壮其山門、遂勸令出家。」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 僧らは斉己を高く評価し、寺を盛んにしてくれるだろうと考えて、斉己を出家させた。
- ② 僧らは斉己は変わり者で、寺で騒ぎを起こすだろうと考えたが、斉己を出家させた。
- ③ 僧らは斉己は邪魔者だが、寺を盛んにしてくれるだろうと考えて、斉己を出家させた。
- ④ 僧らは斉己は変わり者だが、寺を敬いたいと思っていると考えて、斉己を出家させた。
- ⑤ 僧らは斉己の不可思議な力で、寺を豪壮にしてみらおうと考えて、斉己を出家させた。

24

問四 空欄 I に入る成語として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 一字一珠
- ② 一字千金
- ③ 一字褒貶
- ④ 一字之師
- ⑤ 一字千秋

25

問五

傍線部②「不敢以衆人待之」の書き下し文として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 敢へて以て衆人之を待たず
- ② 敢へて衆人を以て之を待たず
- ③ 敢へて以てせざれば衆人之を待つ
- ④ 敢へて衆人を以てせずして之を待つ
- ⑤ 敢へてせざるは衆人の之を待つを以てなり

26

問六

傍線部③「無所不通、殆難及矣」の書き下し文として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 所無く通らず、殆ど難くも及ぶと
- ② 無き所は通らざれば、殆ふきも及び難しと
- ③ 通ぜざる所無くんば、及び難きに殆ふしと
- ④ 所無くんば通ぜず、殆ふければ及び難しと
- ⑤ 通ぜざる所無く、殆ど及び難しと

27

問七

傍線部④「傷其不得志也」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 故郷に帰ることのできない斉己に同情した
- ② 故郷に帰ることのできない斉己を批判した
- ③ 斉己の気持ちを理解できずに傷ついた
- ④ 斉己の諸方行脚の志を邪魔しようと考えた
- ⑤ 諸方行脚の志を果たせない斉己を哀れんだ

28

問八 傍線部⑤「万木凍欲折」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 木々は凍りつき折れてしまつてほしい
- ② 木々は凍りつき今にも折れそうである
- ③ 木々が凍つてしまい私の心も折れそうだ
- ④ 木々は凍るくらいなら折れた方がよい
- ⑤ 木々は凍つた方が折れやすいのでよい

29

問九 空欄Ⅱに入る語として適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 立
- ② 訪
- ③ 往
- ④ 来
- ⑤ 就

30

問十 高雅で静謐な自然詩をうたい、仏教をあつく信奉したため詩仏とも称される唐代の詩人はだれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 李白
- ② 杜甫
- ③ 王維
- ④ 韓愈
- ⑤ 杜牧

(以上で問題は終わります。解答番号 31 以降は使用しません。)